

〈講演〉

## 館ヶ丘団地での学生ボランティア活動（八王子市）

八王子シルバーふらっと相談室館ヶ丘室長 今泉 靖徳

（※一部パワーポイントを用いて説明している部分があります、ご了承ください）

### 『館ヶ丘団地の中に』

八王子市シルバーふらっと相談室館ヶ丘とふらっとカフェということでございまして、実は先ほどからシルバーふらっと相談室という名前で呼んでいただいているのですが、この事業は東京都の補助金で賄われておりまして、ふらっと相談室とふらっとカフェというのは実はそれぞれ別々の事業なのですけれども、同じ団地の空き店舗の中で行われている事業であるということですので、（パワーポイントの映像を示して）あの真ん中にあるこの丸いふらっと相談室のまさにマークなんですけれども、これは平成 24 年に大学生のみなさんが、何か考えたい、ということでシンボルを作ってくれたんです。高齢者の相談窓口なのですが、お年寄りから子どもまで、赤ちゃんも中に入っているのですが、みんなが手をつないで楽しそうな顔をしている、これはまさに私達が目指すところですので、そこを大学生のみなさんも活動の中で理解してくれたんだということであって凄く嬉しかったのを覚えています。

シルバー交番について簡単に話をしたいのですけれども、シルバー交番設置事業というのは少子高齢時代にふさわしい、新たな住まい実現プロジェクトというのが東京都の中で立ち上げられまして始まった事業です。このデータの中でとりわけ特徴的なのは、大規模な団地等における急速な高齢化、コミュニティの活力低下の発生ということでした。

### 『進む高齢化に対して』

そして館ヶ丘団地の現状です。館ヶ丘団地は昭和 50 年にできました。高齢化率を示したものですけれども、これはちょっと昨年のデータなので古いのですが、八王子市は 56 万 4200 人に対して高齢化率が 22% です。じゃあ館ヶ丘団地はどんななんだろうということ、今人口が 3800 名ちょっといるのですけれども 44.2%、という非常に高齢化率が高いところです。実はこの 44.2% というのは今年平成 26 年度の 9 月末時点ではさらに上がっております、47.29% というような状況になっているのですね。

シルバー交番の実施主体は区市町村です。目的としてなのですが、高齢者の総合相談窓口、よろず相談窓口ですね。それから高齢者の実態把握、これは例えば高齢者おひとりおひとりの実態を把握というのもしますけれども、館ヶ丘団地の中に男性がどれぐらいいて、女性がどれぐらいいて、一人暮らしの人がどれぐらいいてとか、糖尿病という病気が非常に多いのですね、男性の一人暮らしの方、そういった病気をお持ちの方がどれぐらいいてなんていうような地域実態把握というの我々のところではやっています。

あと高齢者の見守りネットワークの構築ということで、地域の自治会や老人会、また民生員さんや学校といったようなところのみなさんと協力をしながら、高齢者の見守りネットワークづくりなども行っております。

## 『ふらっとカフェで』

そしてふらっと相談室を紹介したいと思うのですが、入り口のガラスの向こう右側が相談室、左側がふらっとカフェというようなスペースになっていて、ひとつのお部屋の中に共存しているのです。もう本当に毎日みなさんがこう笑顔で明るくお話しされている様子が非常に見慣れた光景になっているのですが、認知症の方であるとか、あと今まで引きこもりであったよ、といった方なんかもカフェを利用してくださっています。

今年の8月29日に開設して2年10ヵ月目でお客様3万人超えちゃったんですね。だいたい今年間で1万2000人ぐらいのペースでお客さんが来ているのですけども、3万人の時がちょうどおむすび計画をやっていた時で子どももいっぱいいたので、子どもがブラカード持ってお祝いしてくれて、お祝いされている3万人目のお客さんは93歳のおばあちゃん。そしてこの93歳のおばあちゃん、私が帰りに送っていった時にこう言ったんです。「私は長生きして来年も4万人目を目指す」と。

ふらっとカフェと今一口に言ってますけども機能が2つありまして、今学生が立ち上げてくれた手話サークルであるとか、ちぎり絵ですとか、あと例えば編み物ですとか、そういったサークル活動もあの中で行われております。

それから機能の2番目として通常にあるような喫茶店と同じ、喫茶スペースがあるんです。それで同じ部屋の中にこのピンク色のシルバーふらっと相談室というのがあるので、さながらカフェの中というのは地域の情報の縮図みたいな場所なんです。ちょっと前の時期だとこたつをいつ出すかという話でおばあちゃんたちが盛り上がっているのです。そしてもう少し前になりますと9月に八王子市ではシルバーパスとってバスに乗り放題、

70歳以上の方が乗り放題のパスを配布するんで、それをどこでももらえるのかという話で持ち切りになっている。まあ高齢者のトレンドがわかるんですけども、それだけではなくて1番大きいのは情報収集とか仲間づくりではなくて、相談室ってなかなかみなさん多分入りづらいんですよ。でもカフェがあることによって自然に足を運びやすくなる。

## 『おむすび計画とは』

ここの活動、先ほども発表していただきましたけども、館ヶ丘団地おむすび計画というものを8月1日から31日まで毎年、今年で3回目になりますが行っています。このおむすびというのは意味がありまして、地域の方にお米を寄付してもらいます。なぜかというに参加する学生さんや子どもたち、高齢者も参加するのでみなさんのためにお米を集めておむすびをお母さんたちが作ってくれるんですね。そしてそのおむすびを食べて活動するのでおむすび計画という意味があるのと同時に、地域にいる人たちがこう結ばれるというそんな意味も込めています。あと1ヵ月の活動を通じて秋には大きな実を結ぶ、というような想いを込めてつけました。

これは1年目の様子で、おむすびの重要な前身となった熱中症予防事業というのが震災があった年に行われたのですけども、館ヶ丘団地の地域事情というものが非常にわかりました。

それでおむすび計画の毎朝一番目の活動はラジオ体操なんですね。このラジオ体操、実はおむすび計画が終わったあと未だに続いておりまして、このラジオ体操に来ない人がいるとその人を心配で安否確認するんですね。見かけないとどうしているのかなと電話かけたり訪問したりするような安否確認活動にもつながっています。

お母さんたちが作っている様子ですけども、

これが実は個別訪問の様子で二人一組ですね、お年寄りのお宅をまわって熱中症の注意喚起をしながら、朝何時に起きて夜何時ぐらいに寝ますかとか、色々なことを聞くんです。

あのおむすび計画というのは実は訪問して一軒一軒熱中症の注意を呼びかけるのですが、その時アンケートを持っていくのですが、そのアンケートをとるとというのは実は実態把握なんです。

団地は山坂が多いのです、ベロタクシーが走るぐらいなので。その中で給水所というところを設けて冷たい水を配っているのですが、今年なんと翔陽高校という隣の都立高校から 55 名もの学生が活動に参加してくれたのです。その子たちが給水のコップにマジックで絵を書き始めたんですね。熱い中、気をつけてくださいとか頑張ってくださいとか、それで最近ではそのコップを捨てられなくて困っているというようなお年寄りもいたりするんです。

お昼ご飯の様子です。団地の中は一人暮らしが多いので高齢者の孤食というのが実は非常に問題で、そういった孤食を団地のアーケードの人でみんなで楽しくわいわい食べることによって、こうやってみんなで食事が楽しいよ、というようなメッセージを投げかけているつもりも実はあるんです。お昼休みの様子ですけどもね、子どもたちが多いです、凄く。

### 『学生さん達の手で盛り上がる夏まつり』

これは学生さんたちの力で復活したお神輿です。夏祭りのお手伝いなんか、夏祭りは商店街が主催ですけれども子どももいなくて店主も高齢者化してお店も減っているのですね、こうやって学生が盛り上げてくれて、お神輿も 20 何年ぶりに復活させちゃったんですけども、やっているうちに子どもがいろんところから湧いてくるように集まって、こうや

ってお神輿に参加している様子ですね。こういう手伝いも非常に助かっているようです。

うちの活動は、いつも大きな活動をやったあとはお疲れ様会をやるのですが、料理は全部住民の持ち寄りなんです。手ぶらで持ち寄りカフェ、居酒屋アットホームってやりましたけども、うちでもこれは何年前から地域のお母さんたちがやっていて、また今度は 12 月にふらっと感謝祭っていうのをやるんですけども、クリスマスのケーキの横に切干大根が並んだりしてね。なかなか家庭的で最適な活動です。

それでこんなことをしていると地域の中で子どもからお年寄りまでが一緒に関わるんですね。そうすると卒業式のコサージュをふらっとカフェによく遊びに来るお母さんたちが作り始めたんです。卒業式にお母さんたちが作ってくれたコサージュを胸に卒業生が卒業していくというような素敵な出来事がありました。学校の配慮でお母さんたちも招待されて、地域の子どもたちを地域の大人たちがお祝いして将来を見送るというような素敵な機会が設けられました。

館ヶ丘サンドというのも高齢者の課題に取り組む上で、ふらっと相談室が商店街に向けて始めた活動です。私たちが 1 番大事に思っていることは、豊かな土壌づくりです。地域コミュニティを豊かにすることが大事だと思っています。介護保険制度や高齢者スタッフも大事なんですけども、住民同士のつながりづくりや顔が見える関係を通じて高齢者が安心できる地域というのがつくれるんじゃないかなというふうに信じています。

実際にここに来てくれている学生のみなさんの一部のみなさんがそれをもう何年かかけて証明してくれているというのが館ヶ丘なんです。こんな笑顔がたくさん溢れてくれたらいいなと思っているんです。

## 『学生へのメッセージ「この学びを生かして役割を担う立場へ」』

最後に、私から今回の話をさせていただく機会をいただいたのでみなさんにお話ししたいことがあるのですが、将来みなさんも就職して社会人になりますよね。社会人という就職をすること、というふうに捉えられがちです、なんとなく僕の感じとしては。でも就職するというのは多分経済的に自立することなのかなというふうに思うのですけれども、社会人というのは社会の中の構成員として自立することはそうですけども、役割を担う立場になるということだと考えると、みなさん大学生であるうちに是非学校教育の中で学問を学ぶことも大事だと思うのですけれども、社会の場に出て、社会教育の場でしっかりと社会を勉強していただきたいなと思っています。

この3年間、今4年目ですけれどもこのふらっと相談室の活動の中で学生さんたちを見て僕はそれをすごく強く感じていますし、これからもたくさんの学生のみなさんからいろいろ私も学ばせていただきながら、みなさんにも社会教育の場であるふらっと相談室というものをしっかりと生かしていただければなというふうに思っています。

今日はどうもありがとうございました。(拍手)